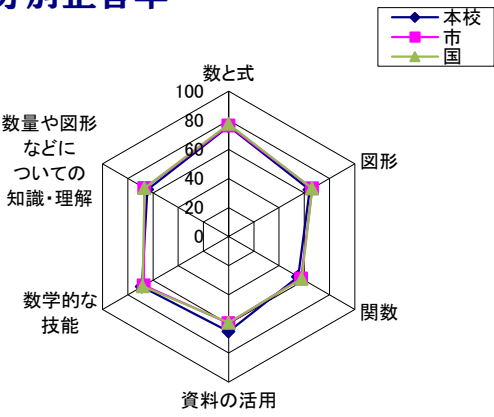


宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

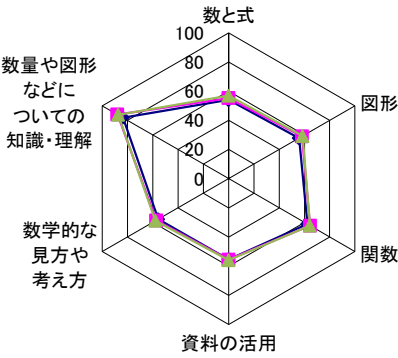
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	75.8	76.3	77.4
	図形	64.3	66.4	66.4
	関数	55.2	57.5	58.0
	資料の活用	65.3	59.5	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	68.7	67.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	64.5	66.7	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	54.0	55.3	56.9
	図形	55.7	58.1	58.6
	関数	62.3	64.5	64.4
	資料の活用	55.4	55.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	55.7	57.3	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	83.7	88.0	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

- 良好なもの ●課題が見られるもの
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている生徒の割合が、全国に比べ10.5ポイント高い。
 - 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている生徒の割合が全国に比べ6.9ポイント高い。
 - 数学ができるようになりたいと思っている生徒の割合が全国に比べ8.9ポイント高い。
 - 数学Bの問題で解答時間が足りなかったと感じている生徒が全国に比べ4.6ポイント高い。
 - 説明する問題について、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合が、3.2ポイント低い。

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○連立方程式を解くが全国より4ポイント県より5ポイント上回っている。 ●絶対値の意味の理解は全国より7ポイント県より6ポイント下回っている。 ●等式の性質と移項の関係の理解が全国、県より4ポイント下回っている。	知識を確実に習得させることと、演習を繰り返すことで定着を図ることの徹底が必要である。
図形	○垂直二等分線の作図については全国より3ポイント県より2ポイント上回っている。 ●図形全般に課題が見受けられ、全国、県より下回っている。特に外角の性質の理解は10ポイント近く低い。	理解に時間がかかるので、丁寧に根気強く指導することが必要である。
関数	○比例の関係を式で表すことは4ポイント、1次関数の式とグラフを関連づけて理解することは6ポイント全国、県を上回っている。 ●変化の割合の意味を理解しているかは県、全国より14ポイント低く、連立方程式の解が2直線の交点の座標としてもとめられることが7ポイント低い。	関数については、苦手だと感じる生徒が多いため、まず興味関心をひく事例を多く考えることが必要だと感じる。
資料の活用	○ヒストグラムの中央値の意味を理解しているかは全国、県より20ポイント近く高い。樹形図を利用して確率を求めるも全国より5ポイント県より10ポイント高い。 ●確率の意味を理解しているは全国より3ポイント県より5ポイント低い。	指導要領の改訂に伴い、学習する内容が増えた分野である。事例を示しながら演習することで成果がでたように感じる。